

# 4年の歩み

## 仙北市議会



国会訪問 菅総務大臣



H18 当選後の初議会



会派研修視察－翠樹会



竣工なった統合角館小学校



平成 19 年 冬季国体田沢湖会場



さようならお別れ会－西長野小学校閉校式



内陸線の乗車促進調査



内陸線調査で新駅の設置を検討



初当選後 佐竹知事を囲む会



行政改革特別委員会研修視察－東根市



勇退議員議場をあとに



石黒市長最後の定例会

## 4年を振り返る



門脇新市長最初の議会

平成18年の市議会議員選挙の激戦を制して当選した24名の議員は、5月9日の臨時議会に晴れ晴れとした顔で勢ぞろいした。月日の流れは早いもので、あれから4年、瞬く間に4年の任期は終わりに近づいた。この4年間、私たちが取り巻く政治情勢は大きく変動した。佐竹知事の誕生は仙北市の将来へ弾みをつけた。国の政権交代は大きな驚きであり、戸惑いとなった。仙北市長の交代劇は皆さんの記憶に新しいところである。議会の今任期の思い出を写真で追ってみてはいかがでしたか。

## 行政改革特別委員会報告 活力を取り戻す強力な改革を！

定例会初日に行政改革調査・研究結果が報告され全会一致で了承された。行政改革特別委員会の設置は、合併により肥大化した福祉部門の人員費比率が論点的となり、平成19年3月議会に行政改革特別委員会（委員長田口勝次、副委員長大石温基）を設置した。19年8月に中間総括を行い、委員会は引き続き調査研究を繰り返した。今年1月に特別委員会として調査結果をまとめたものである。

当初の目的どおり、福祉部門を課題と位置づけ、福祉施設現場との話

「にしき園」については、平成24年度に方向が示されることになった。特別委員会は、議員報酬引き下げや定数の削減について提起し、激論の末8%の報酬引き下げと定数2名削減を決定した。

現行の保育園の経営形態の違いが課題として残されている。

「会社の経営見通しがたないまま存続はできない」という結論はいつの間にか消されていった。

## 内陸線存続調査特別委員会 今後の対応は改選後の議会構成で！

秋田内陸線の当初の利用者は100万人を越えていた。平成19年度では44万人台まで落ち込んだ。経常損失も2億6千万円に達していた。さらに9億円に及ぶ

安全対策工事費用の負担が問題となっていた。平成20年6月定例会において、内陸線の今後のあり方等について調査する特別委員会を設置されたのである。

特別委員会は「改選後に新メンバーで慎重に協議することを確認して、2月定例会で特別委員会の調査を終了したことを報告した。

平成20年11月25日の議会全員協議会では向こう5年間の「再生計画」について議論した。経常損失の負担割合を見直すことや公有民営化方式の結論、観光路線化への転換等方策について協議することだった。その上で「存続」、「廃止」を決定することを合意したはずである。しかし知事や仙北市、北秋田市の両市長も変わり、5年間という三者合意の決定事項を無視し、公有民営化方式を断念して、四者で新たに「存続を前提」とする対応策が突然公表されたのである。前知事、前市長との議論と全く違う方向付けがされたのである。